

# 狛江市洪水ハザードマップを改訂しました

## 狛江市洪水ハザードマップとは？

洪水ハザードマップとは、被害が想定されるエリアや避難する場所などを表示し、対象とする河川が氾濫した場合に、どの位の高さまで浸水する恐れがあるかを示した地図のことです。

狛江市洪水ハザードマップは多摩川氾濫版と野川氾濫版（以前は集中豪雨版）の2種類があり、多摩川や野川で氾濫が発生した場合に、その地点では最大どのくらいの高さまで浸水するかを示した地図です。ハザードマップは、それぞれの地点での最大の浸水深を示しているため、必ずしも、洪水が発生した場合と同じように浸水するとは限りません。しかし、全国各地で過去に発生した洪水災害でも、ハザードマップ上の洪水浸水想定区域で示した地域

に実際に浸水被害が発生した事例も多いことから、洪水浸水想定区域内にお住まいの方や働いている方は、事前対策をしておく必要があります。

## ハザードマップを踏まえた避難行動

自宅や職場などの想定最大浸水深（想定される浸水の最大の深さ）を確認し、自宅等が浸水の恐れがない階層にあるかを確認します。自宅等が堅牢な建物で浸水の恐れがない階層がある場合や、浸水する恐れがない場所に立地している場合は、原則立退き避難は不要です（家屋倒壊等氾濫想定区域を除く）。

また、風雨が強まってからの立退き避難はかえって危険な場合があります。そうした場合は、自宅のより安全な場所に留まり、命を守る最善の行動をとりましょう。

## 多摩川氾濫版（4面）

多摩川氾濫版では浸水の範囲が非常に広く、市内の半分以上が浸水する危険性があるという想定となっています。

### これまでのハザードマップからの変更点

令和元年東日本台風での避難所開設状況を踏まえて、多摩川が氾濫する恐れのある場合に開設する避難所を追加しました。洪水浸水想定区域内にある避難所は想定最大浸水深をもとに、安全な施設の上階を避難所に指定しています。



増水した多摩川の様子

## 野川氾濫版（5面）

東京都建設局が令和元年6月に作成した多摩川水系野川、仙川、谷沢川、丸子川洪水浸水想定区域図の内容を踏まえ、従来の集中豪雨版を野川氾濫版として改訂しました。

### これまでのハザードマップからの変更点

前提となる想定降雨量が増加したため、浸水が想定される範囲が大幅に拡大しています。また、洪水浸水想定区域の状況を踏まえ、避難所の指定を一部変更しています。



増水した野川の様子

### ハザードマップのここも大事！

## 家屋倒壊等氾濫想定区域とは（**河岸侵食**・**氾濫流**）

狛江市洪水ハザードマップには想定最大浸水深以外にも、川の岸が水の流れによって侵食し、地面が流されることにより家屋が流出する恐れのある範囲や、氾濫による水の流れによって家屋が倒壊する恐れのある範囲を示しています。この区域に住んでいる場合は、浸水が想定されない高さに住んでいる場合などでも、自宅にいると危険な場合もあります。右の表を参考に、自分が避難しなければいけないかどうかを確認しておきましょう。




昭和49年の多摩川決壊  
河岸侵食により家屋が流出する様子

### 家屋倒壊等氾濫想定区域（**河岸侵食**）

水の流れによる、河川の侵食を受け、木造・非木造の建物に関わらず、建物の倒壊・流出等の危険性がある区域

#### 立退き避難 （水平避難）

必ず自宅から浸水などの危険がない場所へ避難をしましょう。

※野川氾濫版は  で表示

#### 立退き避難（水平避難）とは

- ・洪水浸水想定区域から、区域外等の安全な場所まで避難すること
- ・移動は浸水が始まる前に！
- ・浸水後に避難をすることは非常に危険

### 家屋倒壊等氾濫想定区域（**氾濫流**）

水の流れにより、木造家屋の倒壊等をもたらすような氾濫が想定される区域

#### 立退き避難 （水平避難）

必ず自宅から浸水などの危険がない場所へ避難をしましょう。

#### 垂直避難とは

- ・自宅の上階等が安全な場合や、すでに周辺で浸水が始まっている際に、自宅の上階等へ留まること

